

がくどうほいくふなばし

2005年2月25日 船橋市学童保育連絡協議会
船橋市南本町31-5(Tel/Fax)047-433-9266 (ホームページ)homepage2.nifty.com/fghrk/

県研究集会に400人参加！

2月6日(日)、船橋市勤労市民センター、中央公民館、商工会議所を会場として、第29回千葉県学童保育研究集会が開催されました。県内各地から約400人の学童保育関係者が参集し、様々なテーマについて交流学習を深めました。船橋市の放課後ルームからも、保護者、指導員あわせて50名が参加して交流だけでなく、受け入れ地域として会場案内など要員としてもがんばりました。

熱心に報告を聞く参加者



同じ日に「輝け！船橋の子どもたちが」開かれました。
「放課後ルームって どんどこ？」

当日参加の方々は、現在、子どもが年長や学童に通っている方々で、現在の学童保育の状況を聞きたいということで参加されました。世話人から、ルームでの過ごし方、長期休みのお弁当、指導員の数や入所状況、おやつの内容&時間、宿題などについて説明がされ、また、疑問に対しての説明もされ、放課後の子ども達が放課後ルームで楽しく生活していることにホッと一安心のようでした。

<楽しい父母会活動に参加して>

同じ千葉県でも市町村によって、行政の対応が違う事に驚かされました。

現状についていろいろ要求はあるにしても、船橋市、特に私のルームは恵まれているなあと感じました。

父母会に参加されている皆様の努力の賜物なのですけどね...

自分のルームの「自慢話会」になってしまったようで、他の参加者の方には申し訳なかったように思いました。



開会あいさつをする
小川市連協会長

法典西放課後ルーム移転のための 予算案が発表されました！

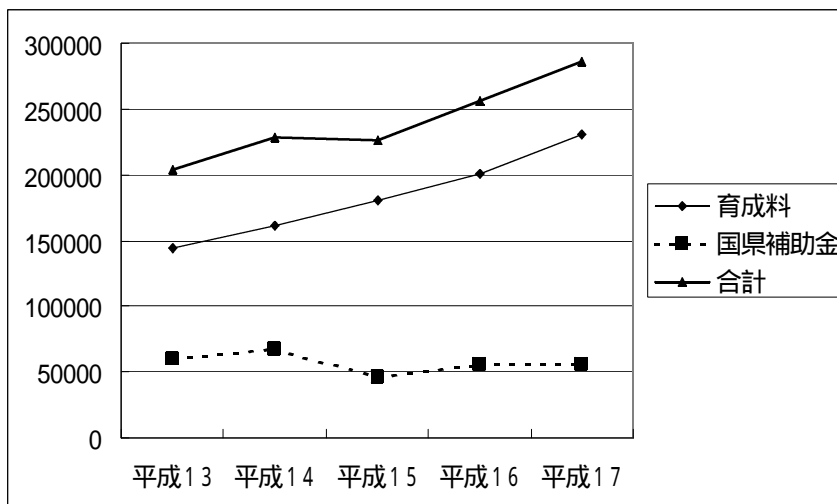
平成17年度予算案が発表されました。

この中では増設5カ所の増設予算が組まれています。特に法典西放課後ルーム移転は、学校からの距離が遠く、子どもたちが通いづらい状況が続いていて、長年改善を求める運動が続いていました。こうした願いがようやく実を結ぼうとしています。

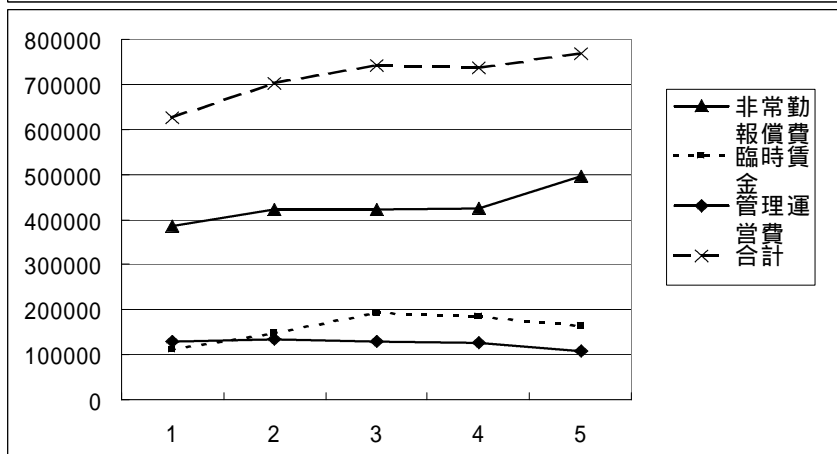
予算案は3月議会で審議され、その決定を経て実施されます。

<放課後ルーム整備費>

放課後ルーム名	限定員	整備後定員
海神南放課後ルーム	50	90
法典放課後ルーム	105	120
法典西放課後ルーム	50	70
中野木放課後ルーム	65	105
芝山東放課後ルーム	40	60



放課後ルーム管理運営費
歳入部分の経年変化



放課後ルーム管理運営費
歳出部分の経年変化



大トカゲあらわる！



「ベーゴマのひもの巻き方はね...」

第3回学童まつり

おとな子どももいっぱいあそんだ

昨年11月14日、船橋市天沼公園において、第3回学童まつり（学童保育連絡協議会主催）が開かれました。1200名の方が参加し、一日、様々なコーナーであそびを楽しみました。恒例のバンド演奏や熱気球の打ち上げもおこなわれました。



木村さんに教えていただいた工作教室



天沼公園は人でいっぱい

ここ数ヶ月（秋以降）、またもコマあそびが盛り上がっています。

難易度順に技を書いて壁に貼りだし、その技ができたなら名前を自分で書き込みます。3秒以上続いたこと、誰でもいいから見ていた人がいることがその条件です。

最初はただワイワイとコマを回して闘いごっこに興じているだけだったのが、何人かが技ができるようになってきます。

今回は2年生のU君と3年生のS君、男の子二人。この二人が競い合っていて技の上達がすすむという展開で始まりました

3年生のS君は土曜日保育の「常連さん」。土曜日はルームでの生活時間がたっぷりあり、子どもの出席が少ないので、コマあそびがたくさんできます。S君は新しい技を次々と成功させていきました。次の月曜日にU君がルームにやっていると、壁の表にS君の名前が出ている。それを見て、U君が俄然張り切る…。この連関でふたりがどんどんうまくなると、今度は他の子がそれをめざして頑張り出す。同じ年齢の仲間ができることで、自分もできるかも知れないという見通しが広がるからでしょう。今では、20人以上の名前が表に書かれるよう

になりました（ただし、今のところ女の子の参加がまだありません。興味があるのですが、ちょっと敷居が高くなってしまったのかも知れません。誰かがはじめると、きっと後に続くと思うのですが...）

ルームにはコマが20コほどあるのですが、コマの善し悪しが「愛好者」たちにはすぐわかります。夢中のあまりに、使いたいコマを隠してしまったり、上級生が無理やり取ってしまったり、その良いコマをめぐるトラブルが起きました。そこでみんなで話し合って、それぞれが納得するようなルールを決めました。その後はトラブルもぱたりと消えました。ルールは大人が押しつけるのではなく、子どもたち自身ができるように、全員が納得できるものにすることが大切だということをあらためて学びました。

お迎えに来た保護者の方ともコマの話題になります。「ぼくも子どもの頃やってたんですよ」とお父さん、「家でも練習しているのでフローリングがぼこぼこになっちゃって...」とお母さん。みなさん嬉しそうな表情です。

我が子が夢中になること、それがあそびであっても、親としては嬉しいものですね。

ほのぼの保育報告 コマあそび ともだちの中に、 自分の可能性を見る